

教育文化センター等利活用検討委員会資料

(第1回)



1 教育文化センターの改修について

(1) 経緯

これまで、「氷見まちなかグランドデザイン」(平成30年3月)で示されたビジョンに基づき、令和2年度から3年度にかけて検討委員会やワークショップが開催され、そこでとりまとめられた意見を参考に、「(仮称)ひみ発見館」及び教育文化センターの整備・改修が検討されてきました。

令和5年度には、「(仮称)ひみ発見館」基本設計が完了しましたが、その後は、能登半島地震により災害復旧を最優先とし実施設計は延期されていました。

現在、教育文化センターは竣工から44年目を迎え、設備等の老朽化が深刻な状況にあり大規模な改修が喫緊の課題となっています。

また、能登半島地震以降、垂直避難場所の確保やまちなかの賑わいづくりの重要性が一層高まっております。

そこで、教育文化センターを垂直避難ができる避難場所として防災機能を充実させるとともに、「楽しみながら、集い、学ぶことができる」複合施設として、また、「市に対する誇りと愛着を育む『ふるさと教育』を推進する施設として機能強化を図り、隣接する市民会館跡地を一体とする改修イメージを含む、新たなコンセプトの構築を進めていくこととしました。

【概要】

H30.3 「氷見まちなかグランドデザイン」策定

公共空地活用計画の中に、「(仮称)ひみ発見館」が示される。

R2.12～R3.3 市民会館跡地等利活用検討委員会開催(3回)

R3.11～R3.12 市民会館跡地等利活用に係るWS(2回)

R4.3 市民会館跡地等利活用基本計画策定 ※(4)

R5.11 水辺の憩い広場整備工事完了

R5.12 (仮称)ひみ発見館基本設計完了 ※(3)

R6.1.1 能登半島地震

(仮称)ひみ発見館実施設計を見送り、復旧復興を優先

R6.6 空調設備(吸収式冷凍機)故障。復旧までに1か月を要す。

R7.12 市議会定例会において、計画をゼロベースで検討することが示される

(2) 施設の現況

(別紙1参照)

- ・所在地 氷見市本町4番9号
- ・構造 鉄筋コンクリート造 5階建
- ・建築面積 5,970㎡
- ・施設に位置する教育機関
 - ①氷見市立図書館(1F)
 - ②氷見市立博物館(1F)
 - ③氷見市教育総合センター(3F)
- ・隣接地
 - ①氷見市民会館跡地
(現況)砂利敷き駐車場(まちなかめぐり無料駐車場)
(面積)約3,500㎡
 - ②水辺の憩い広場(令和5年度整備)
(現況)芝生広場、大階段
(面積)約850㎡

(3) (仮称)ひみ発見館基本設計(令和5年12月)における機能の概要

(別紙2参照)

- ①氷見の「歴史・文化」等の発信拠点
(偉人コーナー、ひみのまつり体験)
- ②氷見まちなかの憩い空間とまち歩き拠点
(ホール、カフェ)
- ③こどもたちは本に親しみ親同士も交流を図れる本を通じた子育て支援の拠点
(こども図書ラウンジ)
- ④水辺の憩い広場
(湊川のウォーターフロントの魅力を感じる憩いの広場)

(4) 「市民会館跡地等利活用基本計画」(令和4年3月)において示された教育文化センターの機能

- ①「中高生の居場所」機能
- ②朝日丘地区の投票所や津波等防災時の避難所

2 今後のスケジュール

- ・ 6月12日 第1回委員会（コンセプト案策定の進め方）
- ・ 6月下旬～7月上旬 第1回ワークショップ
- ・ 7月上旬以降 施設の現状・課題の整理、改修プロセスの整理
- ・ 7月下旬～8月上旬 第2回ワークショップ
- ・ 8月下旬～9月上旬 第3回ワークショップ（コンセプト案意見の取りまとめ）
- ・ 10月中旬 第2回委員会（コンセプト案の検討）
- ・ 10月下旬 第3回委員会（コンセプト案の最終検討）
- ・ 11月以降 次年度予算編成
- ・ 2月下旬 コンセプト案公表

3 その他

- 資料1 教育文化センター等利活用検討委員会委員名簿
 - 資料2 座席表（第1回委員会）
 - 資料3 教育文化センター等利活用検討委員会設置要綱
 - 資料4 教育文化センター機能強化推進事業アドバイザーについて
-
- 別紙1 「教育文化センター図面（平面図・立面図）」
 - 別紙2 「（仮称）ひみ発見館 基本設計説明書（一部抜粋）」